

みやまえ
鴻巣市 宮前遺跡 (第6次)



せんとうき
ナイフ形石器・尖頭器
(旧石器時代～縄文時代 約13,000年前)

左側は後期旧石器時代終わり頃のナイフ形石器、右側は縄文時代草創期の尖頭器。



ふかばち だせいせきふ
深鉢形土器・打製石斧
(縄文時代 約4,000年前)

右上は分銅形の打製石斧、他は深鉢形土器の破片。どちらも縄文時代後期のもの。



りゅうせんようせいじわん とこなめかめ
龍泉窯青磁碗、常滑甕・鉢
(中世 約750年前)

左上は中国龍泉窯の青磁鎬蓮弁文碗、左下は常滑窯鉢、他は常滑窯甕の破片。時代は鎌倉時代。

コラム 宮前遺跡周辺の中世遺跡



台地・段丘 自然堤防 氾濫平野 河川
「国土地理院 地理院地図」と「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」より作成

- | | | | | |
|----------|-----------|-----------|------------|------------|
| 1 宮前遺跡 | 6 富士山南遺跡 | 11 登戸本村遺跡 | 16 二本木遺跡 | 21 本田二ノ割遺跡 |
| 2 平右衛門遺跡 | 7 宮前本田北遺跡 | 12 根際遺跡 | 17 神明遺跡 | 22 糠田古墳群 |
| 3 箕田古墳群 | 8 宮前本田遺跡 | 13 城山遺跡 | 18 宮地3丁目遺跡 | |
| 4 九右衛門遺跡 | 9 登戸新田北遺跡 | 14 伝源経基館跡 | 19 栄町遺跡 | |
| 5 富士山遺跡 | 10 登戸新田遺跡 | 15 前通遺跡 | 20 鴻巣御殿跡 | |

宮前遺跡では、中世居館の堀と考えられる大溝跡や地下式塋が発見されており、その周辺にも中世の遺跡や文化財が数多く残されています。

九右衛門遺跡(4)は大江山の酒吞童子退治で有名な渡辺綱が生まれた館の跡と伝えられています。京都のかわらけを模倣した、手づくねのかわらけが出土しています。

また、糠田古墳群(22)にほど近い放光寺は、鎌倉幕府の重臣安達頼朝の墓とされ、達藤九郎盛長の館跡と言われています。南北朝時代に作られた盛長の坐像(県指定文化財)があります。境内からは平安時代末の渥美窯の壺が出土しています。



ごあいさつ

宮前遺跡は、一般国道17号(上尾道路II期)建設事業に伴い令和3年(2021)より調査を開始しました。これまでの5次に及ぶ調査では、旧石器時代から中・近世にいたる時代の遺構や遺物が見つかっています。

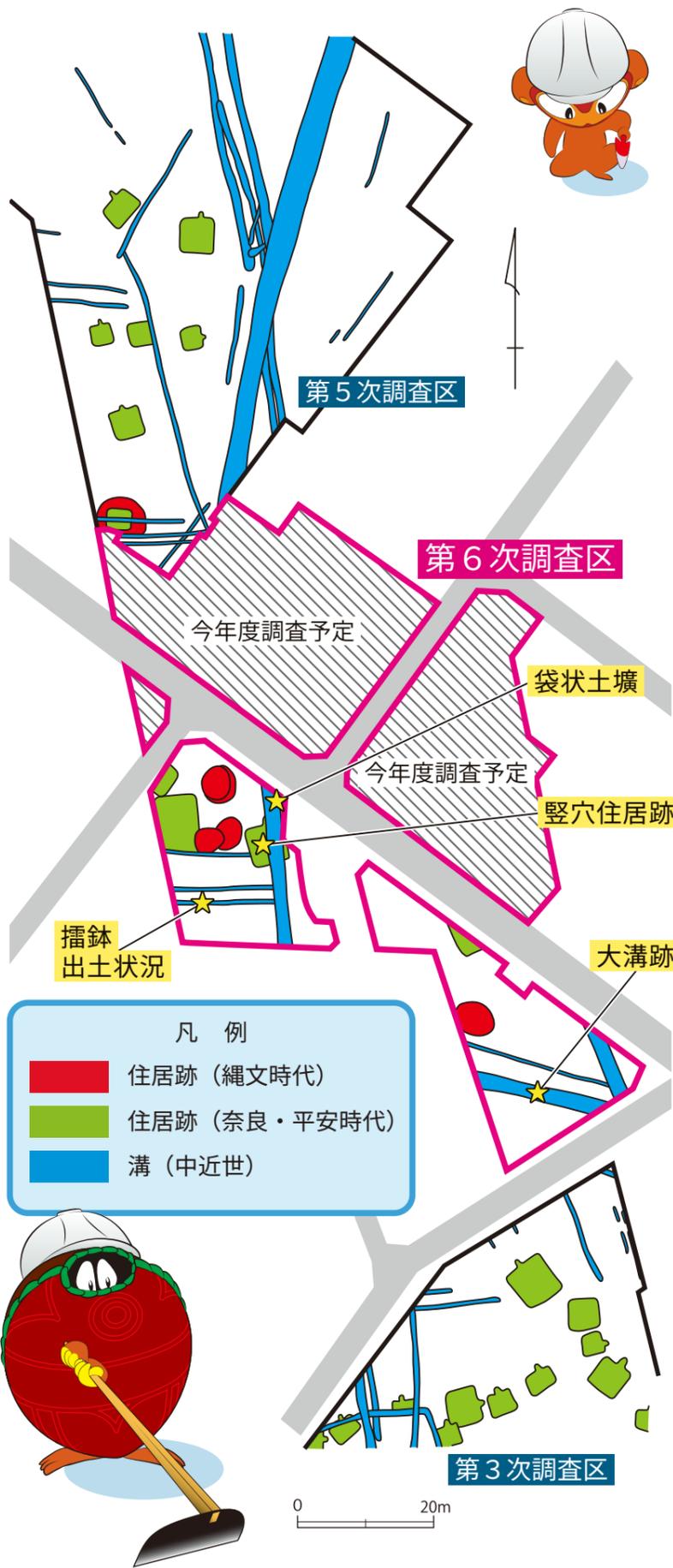
今年度の第6次調査においても、縄文時代の竪穴住居跡や袋状土壇、奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の溝跡などの遺構が多数発見されています。

このたびの令和7年度第2回見学会では、県民のみなさまに発掘調査が進んでいる現場のようすを直接ご覧いただき、地域の歴史へのご理解を深めていただければ幸いです。

令和7年7月5日(土)

- 主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 共催 国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所 埼玉県教育委員会
- 後援 鴻巣市教育委員会

1 宮前遺跡の概要



宮前遺跡は大宮台地北西端、南流する荒川の左岸にあります。標高は15～18mほどで、昨年度までの調査では台地上から低地にかけて、旧石器時代から中世の遺構・遺物が発見されています。

旧石器時代では、台地上から後期旧石器時代の礫群が発見され、同時期のナイフ形石器が出土しています。

縄文時代では、低地部から草創期の爪形文土器、台地上で尖頭器が出土しています。また、後期のさまざまな遺構・遺物が見つかり、台地上からは竪穴住居跡が、台地縁辺からは袋状土壙が、低地から木組遺構、編組製品がそれぞれ発見されています。

古墳～平安時代についても台地上から竪穴住居跡が発見されました。住居跡どうしの重複があることから、長期間継続した集落と想定されます。

中世では、館跡の区画に伴うと考えられる大溝跡・地下式壙・井戸跡が発見されました。大溝跡は方向を違えて多数見つかり、複数の区画が存在したと思われる。大溝跡からは中国産白磁皿・青磁碗、古瀬戸天目、常滑産甕・鉢、在地産内耳鍋・かわらけなどが出土しています。

今回の第6次調査はまだ始まったばかりですが、昨年度までの調査同様、旧石器時代の礫群、縄文時代の竪穴住居跡・袋状土壙、古墳～平安時代の竪穴住居跡、中世の大溝跡など多くの遺構が見つかりました。

2 今回の調査で検出された遺構



ふくろじょうどこう
袋状土壙 (縄文時代)

入口から底面に向かって大きく広がる形状から、「フラスコ状土壙」とも呼ばれています。縄文時代後期にドングリやトチの実の貯蔵のために造られた施設と考えられます。写真の袋状土壙は、土を観察するため右半分だけ発掘した状態で、復元される深さは3m、直径は2mです。

たてあなじゅうきよあと
竪穴住居跡 (奈良・平安時代)

竪穴住居は地面を掘りくぼめて床面とし、柱を立て、屋根を葺いた建物です。

奈良・平安時代の竪穴住居は方形で、その一辺にカマドが造り付けられていました。

この住居跡は中央を後世の溝で壊されています。床からは土器が点々と出土しています。



おおみぞあと
大溝跡 (中世)

宮前遺跡では、断面が箱葉研形で幅2mを超える大溝跡がたくさん発見されています。

これらは中世居館の周囲を巡る堀跡の一部と考えられます。

中国龍泉窯青磁碗や常滑窯甕・鉢など鎌倉時代の陶磁器が出土しました。

すりばち
播鉢出土状況 (近世)

五街道のひとつ、中山道に接する宮前遺跡では、近世の遺構・遺物も見つかりました。

写真の播鉢は出土状態から、使われなくなった溝にまとめて捨てられたものと思われる。

この播鉢は江戸時代前期に信楽窯で焼かれた製品で、江戸を中心に広く流通しました。

